

事務事業名	青少年チャレンジ体験事業	整理番号	11403-000
所 管	社会教育課社会教育スタッフ		

●事務事業の位置付け

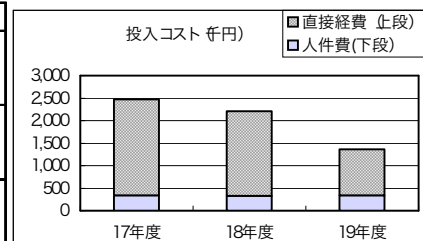
期 間	平成 7年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	青少年チャレンジ体験事業開催要項
基本計画における位置付け	基本政策	1-1 心豊かな人づくり	関連政策
	政 策	1-1-4 青少年の健全な育成	

●事務事業の内容

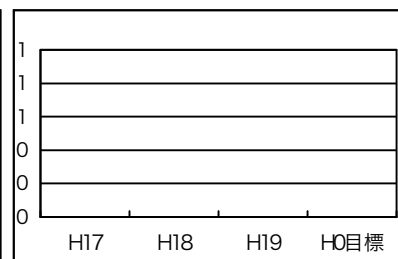
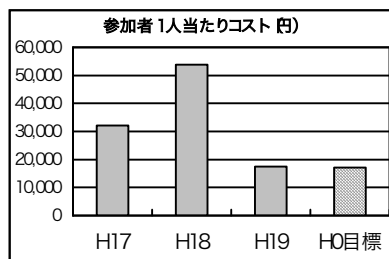
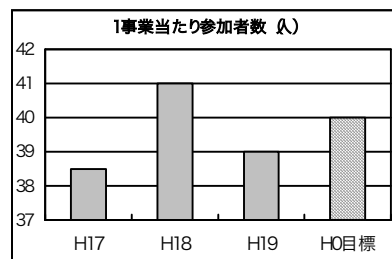
目的 (何のために)	海での野外活動を通じて、自然と触れ合うことの素晴らしさや大切さを学び、出会った仲間と協力し合い1つのことをやり遂げる体験をする。
対象 (誰・何を)	小学校4年生～6年生
手段 (どのようなやり方で)	南伊豆の民宿に泊まり、干物づくりやカッターボート体験や漁師さんの話を聞いたり、地引網体験、地元小学生との交流体験などをする。また、春休み編として、静岡市の東海大学・海洋博物館で水族館の裏側ツアーなどを体験する。指導者として青少年活動推進委員も参加する。
成果 (どのような状態にしたいか)	山に囲まれた故郷を離れ、海での漁師体験を行うことにより、普段とは違った新たな発見をし、自然と触れ合うことの喜びを感じたり、地元漁師との暖かい人間関係を築くことができる。また、青少年活動推進委員は、子どもたちの指導を通して、自らの資質の向上を図り、未来を担う青少年の健全育成につながる場となる。
事務事業の背景・住民の意向	参加児童が親元を離れ、宿泊しながら野外体験活動を行うという事業内容に保護者の評価も高い。
見直し改善の経過	当初、新潟県にて、山村体験活動を行っていたが、平成19年度より、南伊豆町の漁港にて、海での体験活動を行っている。(移動時間の短縮及び経費の削減)

●事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績
平成17年度	参加人数77人(2事業) 青少年活動推進員等スタッフ数24人(参加延べ人数)
平成18年度	参加人数41人(1事業) 青少年活動推進員等スタッフ数16人(参加延べ人数)
平成19年度	参加人数78人(2事業) 青少年活動推進員等スタッフ数20人(参加延べ人数)



●評価指標



●事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	
観点別評価	必要性	★★★★	青少年が多様な体験により自然に触れあい・仲間づくりなどが可能となることから、青少年の健全育成を図ることができ、有効である。
	有効性	★★★★★	
	効率性	★★★★★	
一次評価	A	★★★★★	今後の方向性 継続
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	
二次評価	B	☆☆☆	子ども家庭センター事業と合わせることを手段として考えるなど、事業の運営を見直すこと。 今後の方向性 手段改善

●改革プラン

平成20年度からの対応	予算の減少に対し、少ない予算を効率的に運用し、参加児童の体験プログラムに支障が出ないように、事前調査及び関係機関との連携を充実させる。
平成21年度以降の対応	平成20年度からの対応を継続すると共に、現状の予算内で、参加児童の体験プログラムにさらに充実をはかる。
改革により予想される成果	予算が減少傾向の中でも、参加児童の体験プログラムの質を落とさず、青少年の健全な育成、心豊かな人づくりという政策目的に合致した事業を市民に提供できる。